

第1回 公開授業・研究協議会のまとめ

令和7年7月9日に第1回公開授業・研究協議会を実施し、小学部3年・6年、中学部2年の各授業が公開されました。授業を担当された先生、ご協力ありがとうございました。校内の先生方は他学年や他学部の授業を客観的にみることで、自身の授業を省みる機会となったと思います。今年度は中河内ブロックの小中学校にも案内し、第1回は3名の参加がありました。今後も八尾支援学校の日頃の授業実践を広く発信できる機会になればと思っています。

研究テーマ「キャリア教育の視点を取り入れた支援・指導の在り方」2年めとなり、どのようにキャリア教育の視点を各教科学習に取り入れていくのか、理解が深まってきているのではないのでしょうか。引き続き、「キャリア教育」についての取り組みを進めていきましょう。

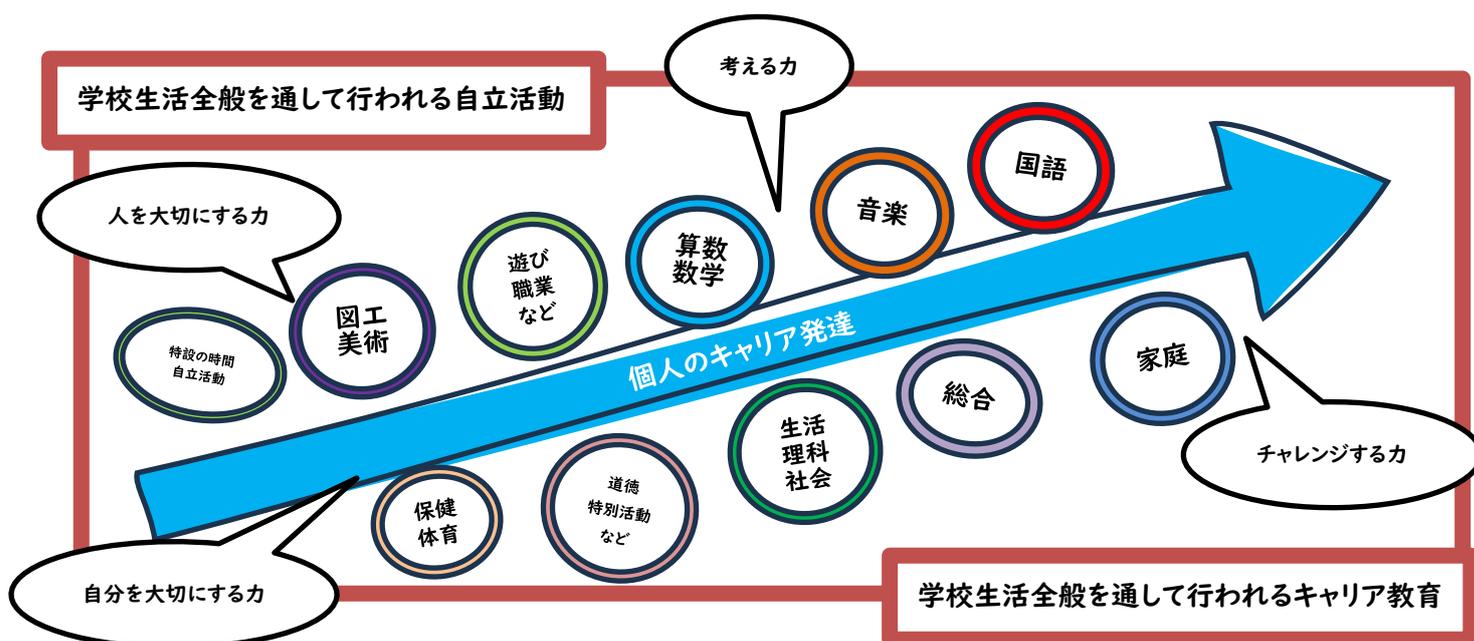
教科目標とキャリア教育目標の関係について



今回の研究協議会で複数のグループから挙げたのが、「教科目標とキャリア教育目標、どちらに軸足を置けばよいのか」という問いでした。教科目標とキャリア教育目標のどちらを優先するかによって、授業展開が大きく変わるのではないかと、いう意見です。例えば、「自分の意見を主張する」「相手のことを考えて行動する」といったキャリア教育目標を掲げた場合、児童生徒同士や教員との対話・やり取りが中心の授業展開になるでしょう。しかし、そこに時間を割きすぎると、教科目標、特に知識・技能や思考・判断・表現といった分野の達成に割く時間的な余裕がなくなる、という状況が考えられます。

結論から言えば、教科目標の達成が優先されるべきだと考えます。各教科で学習すべき内容は学習指導要領によって明確に示されており、シラバスや個別の指導計画にも教科目標として記載されています。これらは、いわば子どもたちが身につけるべき「必須項目」です。一方、キャリア教育は特定の教科だけで完結するものではなく、学校生活全体を通して育まれるものです。もちろん、各教科の学習にキャリア教育の視点を取り入れることは非常に大切です。

したがって、授業展開を考える際には、まず教科目標の達成を第一に据えることが重要です。その上で、教科の特性や内容と関連づけながら、キャリア教育の視点を織り込む方法を工夫していくことが大切であると考えます。



各教科の特性を生かしながら、どの授業でも少しずつキャリア教育の観点を取り入れることで、児童生徒のキャリア発達が促されます。それは、それぞれの児童生徒の卒業後の選択肢を広げることに繋がります。

ご自身の授業の中で取り組めるキャリア教育の視点について、今一度考えてみませんか？